

平成18年10月23日

新潟市長 篠田 昭 様

新潟市総合計画審議会

会長 武藤 輝一

新・新潟市総合計画素案について(答申)

平成18年7月12日に、本審議会に諮問された、新・新潟市総合計画素案（基本構想・基本計画）について、慎重に審議した結果、別紙のとおり答申します。

答 申

平成 18 年 10 月 23 日
新潟市総合計画審議会

近年、本市を取り巻く状況は、少子高齢化の急速な進行や、かつてのような成長が期待できない国内経済、様々な面における国際化の進展、人びとの価値観の「もの重視」から「こころ重視」への移行など、大きく変化しております。

このような状況の中で、新潟市は平成 17 年に 14 市町村による合併を果たし、さらに 19 年 4 月には、本州日本海側初の政令指定都市へ移行しようとしており、このたび策定される「新・新潟市総合計画」は、まさに変動の時代における本市の指針となる計画であると言えます。

本審議会は、平成 18 年 7 月 12 日、総合計画素案についての諮問を受け、3つの部会を設置して、これまで各部会、部会長会議及び全体会を延べ 26 回開催し、総合的・専門的な審議を重ねてまいりました。

審議に当たっては、総合計画のうち「基本構想」については、主に本市を取り巻く「社会の潮流」や、都市形態・地理的条件・産業構造など本市が持つ「特性」を踏まえ、拠点都市としての発展や安心・安全な暮らしの実現などについて、本市の目指すべき方向を的確に捉えているかという「視点」に立ち、また「基本計画」については、主に基本構想で示す方向に各施策が即しているか、市民に分かりやすい表現・構成になっているか、という「視点」に立って素案の内容を審議

いたしました。

この結果，素案は，基本構想・基本計画ともに審議に当たっての視点に概ね合致するものと評価します。

なお，計画の実施に当たっては，基本構想で掲げる理念をもとに「分権型協働都市」「田園型拠点都市」「日本海交流都市」「くらし快適都市」「教育文化都市」の5つの都市像の精神に則り，厳しさを増す社会状況の中，市民と行政が知恵と力を出し合って，交流人口の拡大や産業振興による都市の活性化，安全なくらしづくり，健康・福祉の充実や明日を担う人材の育成などを進め，豊かな市民生活の実現に努めるよう要請します。

また，社会や人びとの価値観が大きく変化する状況において，総合計画の弾力的な運用を図るとともに，総合計画の市民への普及に努めることにより，市民と行政が認識を共有しながら協働のまちづくりを進めることを要請します。

このほか，以下に掲げる本審議会の意見・要望について，計画素案に反映するよう要請します。

◆ 「新・新潟市総合計画」素案への意見・要望

I 計画全体について

- 産業の振興は都市の活性化に不可欠な要素であることから，計画での重点的な記述を検討されたい。
- 交流人口の拡大は重要な視点であるため，都市のアピールに十分配慮されたい。

- 「男女共同参画社会の実現」に力点を置いた計画づくりに努められたい。
- 若者にとって魅力あるまちづくりという視点に立った計画の策定を図られたい。
- 充実した交通基盤の活用は重要であり，計画中に十分反映されたい。
- 人口増について，県内人口の奪い合いではなく，県外からの人口の呼び込みなど，均衡ある発展を目指されたい。
- 全体に「明日の新潟を切り拓く」といった勢いのある前向きな表現に心掛けられたい。
- 計画策定後の進行管理体制について十分検討されたい。
- 用語の説明は巻末の用語集ではなく，同じページに表示される方が分かりやすいと考えられるので工夫されたい。

Ⅱ 時代の潮流

- 政令指定都市としての日本における位置付けと拠点性について明確化されたい。
- 県内における本市の役割について明確化されたい。
- 市民参加や NPO について，より踏み込んだ記述を検討されたい。
- 「人口減少，少子高齢化」に男女共同参画の視点が含まれているが，見出しに入れるなど強調した方がよいと考える。検討されたい。
- 「高齢化」の表現は，マイナスなイメージに捉えられる面がある。「長寿社会」「成熟社会」など，プラスイメージの表現について検討されたい。
- 「国際化と都市間競争の進行」において，経済の視点からの記述が弱いと思われるので，その充実について検討されたい。
- 環境問題は世界的な潮流として重要であり，項目の追加について検討されたい。

Ⅲ 基本構想

1 まちづくりの基本的な考え方

(1) まちづくりの理念

- 基本理念については、本市のこれまでの歴史や特性を踏まえ、今後の目指す方向性を的確にとらえていると評価するが、なお、2つに分かれている基本理念の表現方法については、検討されたい。
- 全体の文章構成については、5つの主要な観点の考え方と都市像へ繋がる流れを、工夫されたい。

2 都市像

(1) 地域と共に育つ、分権型協働都市

- 「協働」など、市民に聞きなれない用語には、補足しながらの丁寧な文章となるよう工夫されたい。
- 「協働のまちづくり」の中にボランティアの記述があるが、捉え方によっては、行政が無償の奉仕を求めると取られかねないので、記述について検討されたい。
- 若者に関する施策は、ともすれば見落されがちであることから、若者もまちづくりに参加しやすい仕組みづくりに配慮されたい。
- 協働のまちづくりの中に、「男女共同参画社会の実現」についても追加するよう検討されたい。
- 総合計画の中で「地域」の概念をどう捉えているのかを明記されたい。
- 「区としてのまちづくり」の部分を丁寧に記述する必要があると思われるので、検討されたい。

(2) 大地と共に育つ，田園型拠点都市

- 「新エネルギーの推進」について，記述の追加を検討されたい。

(3) 世界と共に育つ，日本海交流都市

- 充実した広域交通基盤が十分に活用されていない面があるので，高速道路などの活用に関する記述について検討されたい。

(4) 安心と共に育つ，くらし快適都市

- 「高齢化」の表現については，「長寿社会が進み」にするなど，その項目の方向性に合わせた表現について検討されたい。
- 健康づくりの概念が，市民自身が主体となり行政が支援するという形に変化してきているので，表現について検討されたい。
- 快適なくらしづくりの記述内容が具体性を欠いているので，記述について検討されたい。
- 長寿社会の進行に対応した公共交通に関する記述について検討されたい。

(5) 市民が共に育つ，教育文化都市

- 文化に関する記述が少ない。人を育てる取り組みにおいても文化は重要であり，記述について検討されたい。
- 「優れた教育職員の育成」に関する記述について検討されたい。

Ⅳ 基本計画

1 総論

(1) 将来人口推計

- 人口増加の視点からも，子どもを生子・育てやすく，働きやすい環境づくりが必要と考えるので，この点について検討されたい。
- 若者の定住策についての記述を検討されたい。

(2) 土地利用方針

- 土地利用の方針として「コンパクトなまちづくり」の考え方は妥当であるが，その表現は市民にとって分かりにくいと思われるので，その意味が市民に理解されるよう努められたい。
- 新潟は平坦で自転車の利用者も多いことから，自転車道の整備に関する記述の追加について検討されたい。
- 交通網の整備のほかに，情報網の充実も地域間の格差をなくすうえで重要と考えられるので，記述の追加について検討されたい。
- 「新潟市は水の都と呼ばれる」という記述があるが，新・新潟市全体では唐突感があるので，記述について検討されたい。
- 本市の農業においては，生産性を高めることが大きな課題であり，農村景観を考慮した農業基盤の整備は重要と思われるので，記述について検討されたい。
- 農村集落の環境整備においては，農業者だけでなく都市部の住民も含め，多くの人によって基盤を守っていく必要があると思われるので，記述の追加について検討されたい。
- 各拠点の位置付けにおいて，仮称7区は「生活拠点」の位置付けのみで「地域拠点」の位置付けがない。この点について検討されたい。
- 土地利用方針と都市像との関連が分かるよう，記述について検討されたい。

2 施策別プラン

(1) 地域と共に育つ，分権型協働都市

① 市民と共にまちを育てる

◆ 現況と課題

- 「男女がこれまでの社会慣行に」とあるが，むしろ役割を強制される社会制度が問題であったので，「社会制度・慣行」とすべきと考える。記述について検討されたい。

i 地域と行政の協働の推進

- 分権型政令市の基盤の強化で，「地域コミュニティ協議会」と「区自治協議会」の関連性がわかりにくいので，記述について工夫されたい。

② 個性ある地域づくり

i 地域の特性を活かした地域によるまちづくり

- 「にいがた地元学」など，固有の施策名は，文中に説明を加えるなど，記述について工夫されたい。

③ 市民と行政の信頼のきずな

i スマートでスピーディな市役所

- 行財政の効率化について，より具体的に明示されたい。

(2) 大地と共に育つ，田園型拠点都市

① 田園型政令市にふさわしいまちの姿

i 都市化社会から都市型社会へ

- 「都市化社会から都市型社会へ」は，市民にはわかりづらいことから，表現を検討されたい。
- これまで見られたような市街地拡大型のまちづくりは正さなければならないが，「市街地の拡大は抑制を基本とする」と言い切るのは，表現として強すぎることから，表現を検討されたい。

iv 豊かな自然の保全と育成

- 野生生物の保護・管理の部分に，より踏み込んだマネジメントの考えの記述について検討されたい。

② 都市と田園が恵みあう関係

◆ 現況と課題

- 農業への関心を高めるために，また，人材育成のためにも，小学校からの農業に関する教育が必要であり，記述について検討されたい。

③ 田園型政令市を際立たせる食と花

iv 農業の新たな可能性を拓く

- 農産物の輸出に当たっては，相手国との相互理解のもと，互いに利益となる形で進められるよう配慮されたい。

④ 市民と築く環境先進都市

i 地球環境に貢献する

- 環境に関する技術協力も進んでいることから，「国際協調」を「国際協力」と表現を修正するよう検討されたい。

(3) 世界と共に育つ，日本海交流都市

① 都市を活気づける交流人口の拡大

i 食と花の新潟のイメージ確立

- 政策的に新潟市全体が「花のまち」というイメージを強く出して行く方向で検討されたい。

ii みなとまち新潟のイメージ確立

- 「水の都」と「みなとまち新潟」を適切に使い分け，市民や来訪者にも周知できるよう宣伝することが必要であり，この点を配慮されたい。
- 賑わいのあるみなとづくりのため，港周辺における本町市場のような商業施設の立地は，効果的であると考えられることから，検討されたい。

③ 産業が生まれ育ち都市がにぎわう

iii 既存産業の振興

- 漆器は，新潟市の伝統的地場産業としての市民の認知が非常に低いことから，認知度の向上を図ることが必要である。また，「伝統的地場産業」を「伝統工芸」と表現を修正するよう検討されたい。

vi 企業誘致の推進

- 企業誘致においては，新潟市の特性の何をアピールし，どの分野の優良企業を誘致するのか，その方向性について検討されたい。

④ 日本海政令市の拠点性の強化

iv 世界に開かれた交通機能の強化

- 新潟駅から空港へのアクセスの向上で，軌道系交通も含め，短期的・中期的視点に立った具体策について検討されたい。

⑤ 賑わうまちなか

ii 水辺を活用したにぎわいづくり

- 水上バスの宣伝や，舟運による各河川を結びつけた「川の回廊」づくりなど，水辺を活用したにぎわいづくりや，「北前船」をテーマとしたみなとまちのイメージ発信などについて，検討されたい。

(4) 安心と共に育つ，くらし快適都市

① 毎日の安全な暮らしを守る

i 犯罪の防止

- 犯罪の防止の中で，「自分の安全は自分で守る」という表現だけを強調すると，市が何もやらないとも受け取られるので，誤解を招かないよう表現について検討されたい。

iv 防災体制の強化

- 河川整備は重要であるが，とりわけ，中ノ口川の改修は，喫緊の課題であるとともに，水系の整備にあわせた中ノ口川水門のあり方についても配慮されたい。

④ こどもたちの健やかな育ちの支援

◆ 施策体系

- 「すこやか未来アクションプラン」に沿った形で，子育て支援に関する施策体系の整理を図られたい。

i 子育て支援の充実

- こどもの居場所づくりとして，児童館や児童センターのほかに，屋外での遊び場の充実も必要である。校庭の芝生化も含め，検討されたい。

⑤ 長寿社会をいきいきすごす

◆ 現況と課題

- 高齢者へのサービスの提供だけでなく、高齢者が持つ豊富な知識と経験の活用や、高齢者の就労という視点も必要であり、「長寿社会を担う高齢者」というようなイメージとなるよう、記述について検討されたい。

⑥ 障害のある人の自立支援

◆ 現況と課題

- 自閉症等の発達障がい者への支援について、「成人期まで」と限定せず、「生涯にわたって」といった表現への修正について検討されたい。

⑧ 地域保健福祉の充実

◆ 現況と課題

- 新潟水俣病について、環境の面からの視点も含め、記述について検討されたい。

⑩ 快適で安全な生活基盤づくり

i 身近で快適な交通の確保

- 今後重要になってくる「河川交通」の記述を検討されたい。
- 区バスによる区内の交通の確保のほか、既存のバス路線も含め、区と区を結ぶ交通の確保について検討されたい。

(5) 市民が共に育つ，教育文化都市

① 地域と家庭がひとを育てる

i 学・社・民の融合の推進

- 地域活動の場としての公民館の重要性を，記述するよう検討されたい。

ii 家庭教育の充実

- 子育て家庭への支援や学習機会の提供は，具体的な取り組み内容の記述について検討されたい。

④ 学びを支援する学習環境

ii 信頼される教育関係職員の育成

- 教職員の採用・登用などは政令指定都市となつての大きな柱であり，その部分や取り組みの具体的な記述について検討されたい。

⑤ 文化の振興

◆ 現況と課題

- 「国際的な文化，文化交流」「旧市町村にある地域文化」「開港5港としてのみなとまち文化」に関する記述について検討されたい。

⑥ まちづくりに生かす生涯スポーツ

◆ 現況と課題

- プロスポーツチームの記述のみでアマチュアスポーツがない。むしろ早起き野球，学校レベルでのスポーツなど，アマチュアスポーツに関する記述を検討されたい。

i 生涯にわたるスポーツ活動の推進

- スポーツを通じた健康づくりは重要な視点であり，より具体的な記述について検討されたい。

3 重点プラン

◆ 計画全体

- 15のテーマを5つの都市像に沿った形で整理を図られたい。
- 文化・芸術やスポーツの施策について、テーマの追加を検討されたい。
- テーマ選定の考え方を明確化されたい。
- 「芸術」というキーワードで、文化の施策を記述されたい。
- 「目標・指標」をわかりやすく表記するよう工夫されたい。

① 協働による地域づくりの推進

- 市民と行政が協働を進めるうえで、相互の情報共有が必要であることから、そのような表現を図られたい。

② 都市イメージの発信

- 海外観光の振興の中で、観光PRの相手国が中国・台湾等となっているが、韓国など他地域も含め検討されたい。

③ 食と花の魅力づくり

- 生産基盤の強化や収益性の向上、地産地消などを進め、農水産物の生産量拡大を図ることにより、「食料自給率」をさらに高めるという記述について検討されたい。

⑤ 水辺のまちづくり

- 新潟の優れた自然特性である「海辺」についても記述されたい。

⑩ 環境先進都市の構築

- バイオマス利活用について、より広い範囲の取り組みについて検討されたい。

⑪ 安全なくらしの確保

- NGO, NPO などとの連携による地域防犯力の向上の記述を検討されたい。
- 水害対策においては, 極力被害を少なくする必要はあるが, ハード対策には限界があり, 水害を全くなくすことは困難なことから, その旨市民に理解されるよう努められたい。

⑫ 健康社会の実現

- 健康づくりの一環として, スポーツに関する記述の追加について検討されたい。

⑭ 子育て環境の整備

- 子育てについては, 企業の理解が重要であり, 企業も応援する環境づくりに関する記述について検討されたい。

⑮ 優れた人材の育成

- 優れた教育職員の育成に関する記述を検討されたい。

4 区ビジョン基本方針

- 文章表現については、区自治協議会準備会や地域審議会と協議をしながら作成したこともあり、地元の意向を反映した表現や、特徴的なものについては、区の独自性を尊重することが望ましいが、それ以外の表現は、統一に努められたい。
- 生物と共生できる農村・農地のあり方について、農業比率の高い区において記述されたい。
- 区ビジョン基本方針策定に当たっての基本的な考え方を明確化されたい。
- 1区の施策の方向において、南浜地区の環境整備をどのようにしていくのか検討されたい。
- 3区の施策の方向の中に、新潟市の「顔」として花などをもっとはっきり出した方がよいと思われるので、検討されたい。
- 4区の担う役割の中の「副都心機能」という言葉について、他の区との整合を図るうえで「副都心的機能」という表現も考えられる。この点について検討されたい。

V おわりに

総合計画に基づく施策の実施に当たっては、計画で示す方向を踏まえるとともに、本審議会において出された意見・要望及び「市民の声」を十分尊重することを要請します。

また、行財政のさらなる効率化・健全化に努め、市民ニーズに真に答え得る政令指定都市にふさわしい市政運営を進められるよう要請します。